座間味村　橋梁長寿命化修繕計画
（令和7年度改定）

座間味村HPより

令和8年2月

座間味村　産業振興課

1. 座間味村の概要 ・・・・・・・・・・・・ 1

2. 長寿命化修繕計画の背景と目的 ・・・・・・・・・・・・ 1

3. 長寿命化修繕計画の対象橋梁 ・・・・・・・・・・・・ 2

4. 長寿命化修繕計画の基本方針 ・・・・・・・・・・・・ 4

5. 事業の効率化・費用の縮減に関する方針 ・・・・・・・・・・・・ 4

6. 健全性の診断 ・・・・・・・・・・・・ 5

7. 管理橋梁の状態及び点検結果について ・・・・・・・・・・・・ 5

8. 修繕優先度の設定 ・・・・・・・・・・・・ 7

9. 修繕優先度一覧 ・・・・・・・・・・・・ 8

10. 事業計画一覧 ・・・・・・・・・・・・ 9

1. 座間味村の概要

(1) 気　候

座間味村の気候は、年間の平均気温は21.1℃で、最高気温の平均が23.5℃、最低気温の平均が19.4℃となっており、温暖で温度格差が小さい。年間平均降水量は2,148.4mm で、月別では５～６月の梅雨期と９月に多くなっています。また、年間を通じて北よりの風が多く、平均風速は５m前後となっています。

本村では台風の接近あるいは上陸が頻繁で、さらに沖縄は南の貿易風(東風)帯と北の偏西風帯の境界付近に位置しているため、南東方向から近付いて来る台風は沖縄付近で進路を北または北東へ変え、そのとき台風のスピードが落ちるため１～２日間暴風雨に晒されることも少なくない状況で塩害を受けやすい自然環境にあります。

(2) 地理的特徴

座間味村は、県庁所在地である那覇市から西へ約40km の東シナ海に点在する慶良間諸島のうち、西側にある大小20 余りの島々からなる離島村で、地形としては、全島の面積は小さく、崖が多く湾入の多いリアス海岸を持つ多島となっており、内海に面する海岸は、砂浜を主体とする緩やかな地形ですが、外海側では急勾配で基岩が露出し、海食地形が発達しています。

2. 長寿命化修繕計画の背景と目的

(1) 背　景

座間味村が管理する橋梁は、令和7年現在4橋（橋長2m以上）で、全ての橋梁が15m未満です。

道路は村民生活を支える非常に重要な社会基盤であり、ネットワークが維持されてこそ、その機能が発揮されます。しかしながら、これらの橋梁の大半が老朽化していくなかで、従来の対症療法型の維持管理を続けた場合、橋梁の修繕等に要する維持管理コストが増大するものと考えられます。

(2) 目　的

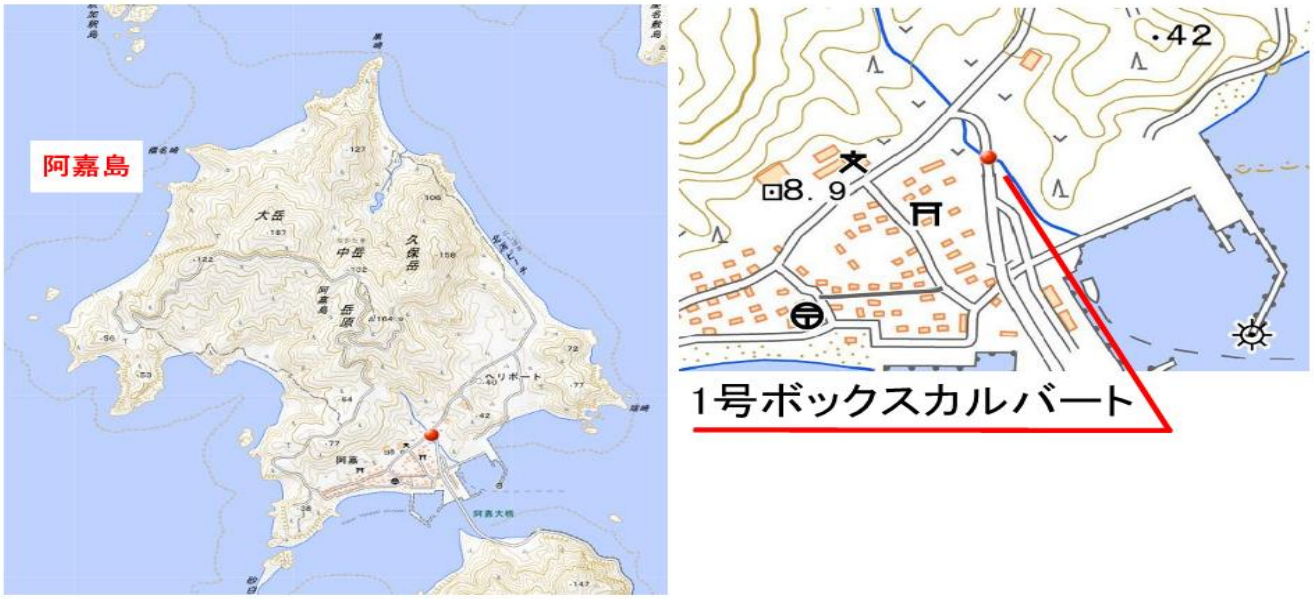
このような背景から、村民の安全で安心な生活を確保するため、従来の対症療法型の管理から、予防保全型の維持管理へと転換を図ることにより、橋梁の維持管理費の縮減を図るとともに、限られた予算の中で効率的かつ効果的に橋梁の維持管理を行い、健全な道路ネットワークを保全することを目的に「橋梁長寿命化修繕計画」を策定しました。

3. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

No.	橋梁名・函渠名	路線名	所在地	構造形式	架設年次（西暦）	供用年数	橋長［m］	幅員［m］	道路等級
1	榮橋	阿真線	字座間味	RCボックスカルバート	2004年	21年	5.30	3.96	2級
2	旭橋	座間味集落線	字座間味	RCボックスカルバート	1995年	30年	7.50	3.70	その他
3	内川橋	座間味阿佐線	字座間味	RCボックスカルバート	1991年	34年	10.00	12.70	1級
4	1号ﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ	慶留間阿嘉線	字阿嘉	RCボックスカルバート	1990年	35年	2.60	20.80	1級

	1級	2級	その他	合計
橋長15m以上	0	0	0	0
橋梁15m未満	2	1	1	4
合　　計	2	1	1	4

橋梁位置図



4. 長寿命化修繕計画の基本方針

(1) 健全度の把握の基本的方針

健全度の把握は、最新版の「道路橋定期点検要領」（ 国土交通省 道路局）に基づく点検を定期的に実施し、橋梁の損傷状況を踏まえ継続的に健全度の把握を行っていきます。

また、点検に当たっては全ての橋梁で新技術等の活用を検討し、費用の縮減や効率化に取り組むことを目標とします。

(2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理としてパトロール等を実施し、橋梁の安全性を確認していきます。

(3) 計画期間及び計画の見直し時期

当該橋梁長寿命化修繕計画の計画期間は令和８年度から令和12年度までの５年間とし、定期点検を踏まえて、適宜管理方針・評価の見直しを行います。

5. 事業の効率化･費用の縮減に関する方針

(1) 費用の縮減に関する方針

損傷が深刻化してから大規模な修繕（架替え等）を行う事後保全から、損傷が軽微なうちに修繕を行う予防保全へと転換し、大規模な修繕・更新（架替え）の抑制によるLCC（ライフサイクルコスト）の縮減を図るための日常的な維持管理を検討します。

(2) 新技術の活用

橋梁の維持管理を効率的に行うことを目標に、令和8年度から令和12年度までの5年間において1橋で新技術適用を検討し、約30万円（約12%）程度のコスト縮減を目標とします。

(3) 橋梁の集約化・撤去

管理する3橋について集約化・撤去の検討を行った結果、隣接した迂回路を通行した場合、迂回距離約200m・迂回時間約3分と短いが、地域集落が海岸に近く、本施設は村指定の避難所への避難経路となっている為、設置場所やその必要性から現時点では集約化・撤去を行うことが困難となっています。

今後、代替路線の計画や、利用交通量が著しく減少してほとんど機能しなくなった場合、地元住民等と協議を行い、集約化・撤去の検討を進めます。

6. 健全性の診断

道路橋定期点検要領では、今後管理者が執るべき対策を判断するための総合的な評価である「健全性の診断」を行うこととなっており、この診断は、各損傷に対して維持・補修等の計画を検討する上で必要な評価となります。

表－１　健全性の診断における判定区分

区分		状　態
Ⅰ	健全	・損傷が認められないか、損傷があり補修の必要があるものの、損傷の原因、規模が明確であり、直ちに補修するほどの緊急性はなく、放置しても少なくとも次回の定期点検まで（＝5年程度以内）に構造物の安全性が著しく損なわれることはないと判断できる状態。
Ⅱ	予防保全段階	・損傷が進行しており、耐久性確保（予防保全）の観点から修繕計画に合わせながら適切な時期に補修等される必要があると判断できる状態。なお、橋梁構造の安全性の観点からは、直ちに補修するほどの緊急性はないもの。
Ⅲ	早期措置段階	・損傷が相当程度進行し、当該部位、部材の機能や安全性の低下が著しく、橋梁構造の安全性の観点から劣化の状態や進行状況に合わせ早期（＝5年程度以内）に補修等される必要があると判断できる状態。
Ⅳ	緊急措置段階	・構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、即時通行規制や応急措置など、緊急に何らかの安全措置を行う必要がある状態。

7. 管理橋梁の状態及び点検結果について

令和7年度点検結果

健全性		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	計
種別	1級	2	0	0	0	2
	2級	1	0	0	0	1
	その他	1	0	0	0	1
計		4	0	0	0	4
割合		100%	0%	0%	0%	100%

（1）修繕措置の着手状況

現段階で、着手する橋梁はありません。

点検結果総括表

NO	橋梁名・溝橋名	路線名	所在地	構造形式	架設年次（西暦）	供用年数	橋長［m］	幅員［m］	径間数	主な変状と部材		橋梁毎の健全性の診断	点検年度
										対象部材	変状の種類		
1	榮橋	村道阿真線	座間味村字座間味	RC溝橋(BOXｶﾙﾊﾞｰﾄ)	2004	21年	5.30	3.96	1	－	損傷無し	Ⅰ	H7
2	旭橋	村道座間味集落線	座間味村字座間味	RC溝橋(BOXｶﾙﾊﾞｰﾄ)	1995	30年	7.50	3.70	1	上部構造	ひびわれ 変形・欠損	Ⅰ	R07
3	内川橋	村道座間味阿佐線	座間味村字座間味	RC溝橋(BOXｶﾙﾊﾞｰﾄ)	1991	34年	10.00	12.70	1	上部構造 下部構造	変形欠損 土砂堆積	Ⅰ	R07
4	1号ボックスカルバート	村道慶留間阿嘉線	座間味村字阿嘉	RC溝橋(BOXｶﾙﾊﾞｰﾄ)	1990	35年	2.60	20.80	1	上部構造 下部構造	変形欠損 土砂堆積	Ⅰ	R07

表-1　道路橋定期点検要領 における健全性の診断の区分

区分（告示）		
Ⅰ	健全	構造物の機能に支障が生じていない状態把握
Ⅱ	予防保全段階	構造物の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講ずることが望ましい状態
Ⅲ	早期措置段階	構造物の機能に支障が生じる可能性があり、早期に措置を講ずべき状態
Ⅳ	緊急措置段階	構造物の機能に支障が生じている、又は生じる可能性が著しく高く、緊急に措置を講ずべき状態

8. 修繕優先度の設定

橋梁を効率的に維持管理していくため、対策を行う優先順位をルール化しました。
優先順位は、各橋梁の「健全性」と「重要性」から判断します。

(1) 橋梁の健全性

健全度の評価は点検結果をもとに、橋梁に求められる「耐荷性」「災害抵抗性」「走行安全性」、「活荷重」「地震」「豪雨・出水」「その他」に対してどのような状態になる可能性があるのか技術的な総合評価をします。

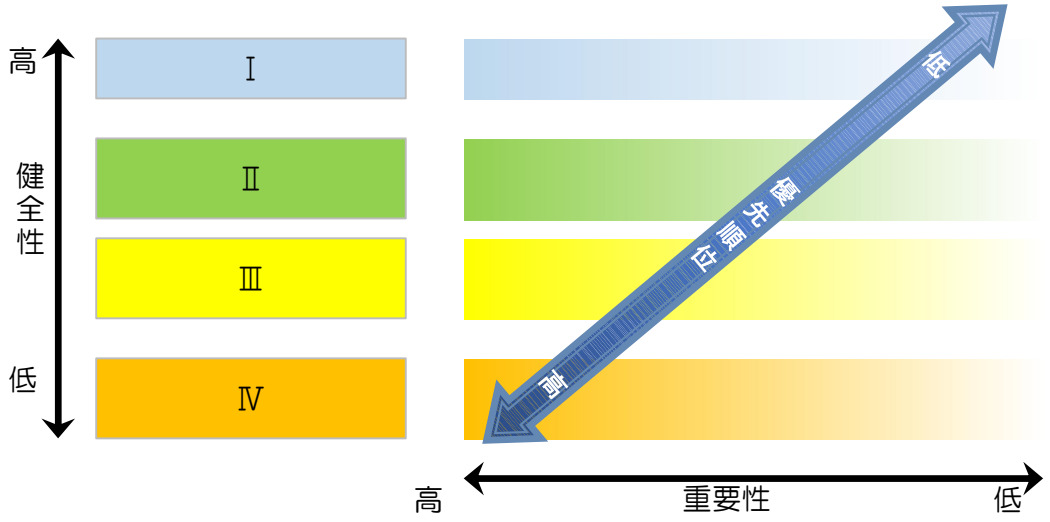
評価が同等な場合は、重要度の高いものを優先します。

(2) 橋梁の重要性

重要性は、橋梁の諸元や架設環境、交差条件、路線の利用状況などから橋梁毎に評価をします。

(3) 目標

橋梁のメンテナンスを定期的に行うことで健全な状態を保つことを目標とします。



健全性と重要性を考慮した優先順位

9.修繕優先度評価結果一覧

高い方が重要

橋梁名・溝橋名	路線名称	所在地	架設年次	供用年数	径間数	橋長（ｍ）	幅員（ｍ）	橋梁毎の健全性の診断	対策区分の評価	各重要度評価項目の評価点										重要度評価点	重要度順位	各評価指標の評価点			健全度評価点	健全度順位	修繕優先度評価点	修繕優先順位
										緊急輸送道路（重要施設アクセス路）	道路等級	バス路線	迂回路の有無	観光地アクセス	塩害地域	竣工年時	橋長	交差条件	立地条件			耐荷性	災害抵抗性	走行安全性				
1号ﾎﾞｯｸｽｶﾙﾊﾞｰﾄ	慶留間阿嘉線	字阿嘉	1990年	31年	1	2.60	3.96	Ⅰ	B	0.0	4.0	0.0	5.0	3.0	6.0	2.5	0.0	0.0	3.0	23.5	2	88.0	60.0	88.0	76.80	4	23.31	1
内川橋	座間味阿佐線	字座間味	1991年	30年	1	10.00	3.70	Ⅰ	B	0.0	4.0	2.0	0.0	3.0	12.0	2.5	0.0	0.0	0.0	23.5	1	88.0	86.0	97.3	89.06	3	15.96	2
旭橋	座間味集落線	字座間味	1995年	26年	1	7.50	12.70	Ⅰ	B	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	3.0	9.0	4	90.0	96.0	98.0	94.00	2	7.20	3
榮橋	阿真線	字座間味	2004年	17年	1	5.30	20.80	Ⅰ	A	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	6.0	0.0	0.0	0.0	3.0	11.0	3	100.0	100.0	100.0	100.00	1	4.40	4

修繕優先度評価点＝（100－健全度評価点）×0.6＋重要度評価点×0.4

10. 事業計画一覧

修繕優先順位	橋梁名	路線名称	橋長（m）	幅員（m）	橋面積（m2）	架設年次	供用年数2025年現在	最新点検年次	健全性の診断	措置状況	事業費（千円）											備考
											2025年	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年	
											R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	
1	1号ボックスカルバート	慶留間阿嘉線	2.6	20.8	54.1	1990年	35年	R07	Ⅰ	措置不要	540 定期点検	0	0	0	0	540 定期点検					540 定期点検	メンテナンスにて対応
2	内川橋	座間味阿佐線	10.0	12.7	127.0	1991年	34年	R07	Ⅰ	措置不要	540 定期点検	0	0	0	0	540 定期点検					540 定期点検	メンテナンスにて対応
3	旭橋	座間味集落線	7.5	3.7	27.8	1995年	30年	R07	Ⅰ	措置不要	540 定期点検	0	0	0	0	540 定期点検					540 定期点検	メンテナンスにて対応
4	榮橋	阿真線	5.3	4.0	21.0	2004年	21年	R07	Ⅰ	措置不要	540 定期点検	0	0	0	0	540 定期点検					540 定期点検	メンテナンスにて対応
											2,160	0	0	0	0	2,160	0	0		0	2,160	